

イール・ド・フランスにおける マルシェの空間形態に関する考察

—2005 年第 2 回市場空間調査報告 その 2—

鶴田佳子・高木亜紀子

A Study on the Space Configuration of 'Marché' in Ile de France:
A Second Report on the Field Survey of the Market Place Part 2

Yoshiko TSURUTA and Akiko TAKAGI

This paper aims to investigate the space configuration features of 'Marché' in Ile de France based mainly on the results of the second field survey conducted in the summer of 2005. The first field study of market places in Paris was conducted in 2004. The authors aim to clarify the features of market places through the analysis of their forms and the data accumulated thus far. These market places are called 'Marché' in French, and take the forms either as permanently installed market halls or open markets which are temporarily installed on a regular basis. In this study, the authors try to examine the space configuration of 'Marché' from the following viewpoints: the location and the layout of the open markets and their relationship with permanent buildings surrounding them.

Key words: *Marché* (マルシェ), *market place* (市場), *open market* (露天市), *field survey* (フィールド調査), *space configuration* (空間形態)

1. はじめに

パリ市内のマルシェ¹⁾について 2 回にわたり空間形態調査を実施し、41 事例の現状を記録してきた²⁾。調査対象とするマルシェは、生活に結びついた商業空間である。広場や路上に露店の並ぶ定期市や大空間のホール内に小さな店舗が並ぶ市場施設といった形態をとり、商品としては野菜や魚、乾物などの食料品から花、靴、衣類、布類、家具にいたるまで多様な品目が扱われている。パリでは、広場や街路に加え、大通り内の緩衝帯や鉄道の高架下など都市の隙間ともいえるスペースを有効活用し、数多くのマルシェが開催されている。今回はパリ近郊、イール・ド・フランス³⁾の都市を対象に調査を実施し、大都市パリと比較、考察するための基礎データとする。Guide des Foires Fêtes Marchés de France⁴⁾によると、イール・ド・フランスでは本文献出版年の 1985 年の時点で合計 1000 以上の市が立っている。それを、県ごとに曜日別のマルシェ開催件数を整理したものが表 1 である。現在も全てのマルシェが継続しているか否かは不明であるが、パリ商工会議所の報告書⁵⁾の中でもイール・ド・フランスでは特殊なものや臨時の市を計算に入れなくても合計で 600 から 700 のマ

ルシェが開催されている、と記述されている。毎日開催されるものと月曜開催の件数はわずかであるが、他の曜日はいずれも 100 を超える件数となっている。

今回の調査は 6 日間と短期間であり、多くの事例を調査することはできないが、開催日や都市図等から調査地を選定し、マルシェの空間形態、開催場所、内容について現状把握を行う。

表 1. 1985 年におけるイール・ド・フランス 7 県の曜日別
マルシェ開催件数 (出典: 参考文献 003)

	月	火	水	木	金	土	日	毎日	合計
セーヌ・エ・マルヌ県	3	24	19	22	21	28	21	0	138
イヴリーヌ県	2	23	30	26	28	33	19	2	175
エソンヌ県	2	16	27	28	17	30	25	3	166
オー・ド・セーヌ県	1	22	20	19	19	21	10	8	168
セーヌ・サン・ドニ県	3	26	28	24	20	20	12	4	161
ヴァル・ド・マルヌ県	1	29	29	23	25	24	17	3	169
ヴァル・ド・ワーズ県	1	24	25	23	18	26	23	4	168
曜日別計(件)	13	164	178	165	148	182	127	24	1145

2. 調査の概要

- (1) 調査対象地: イール・ド・フランス
- (2) 調査期間: 2005 年 8 月 18 日から 8 月 22 日までの 5 日間及び 8 月 27 日を合わせた計 6 日間

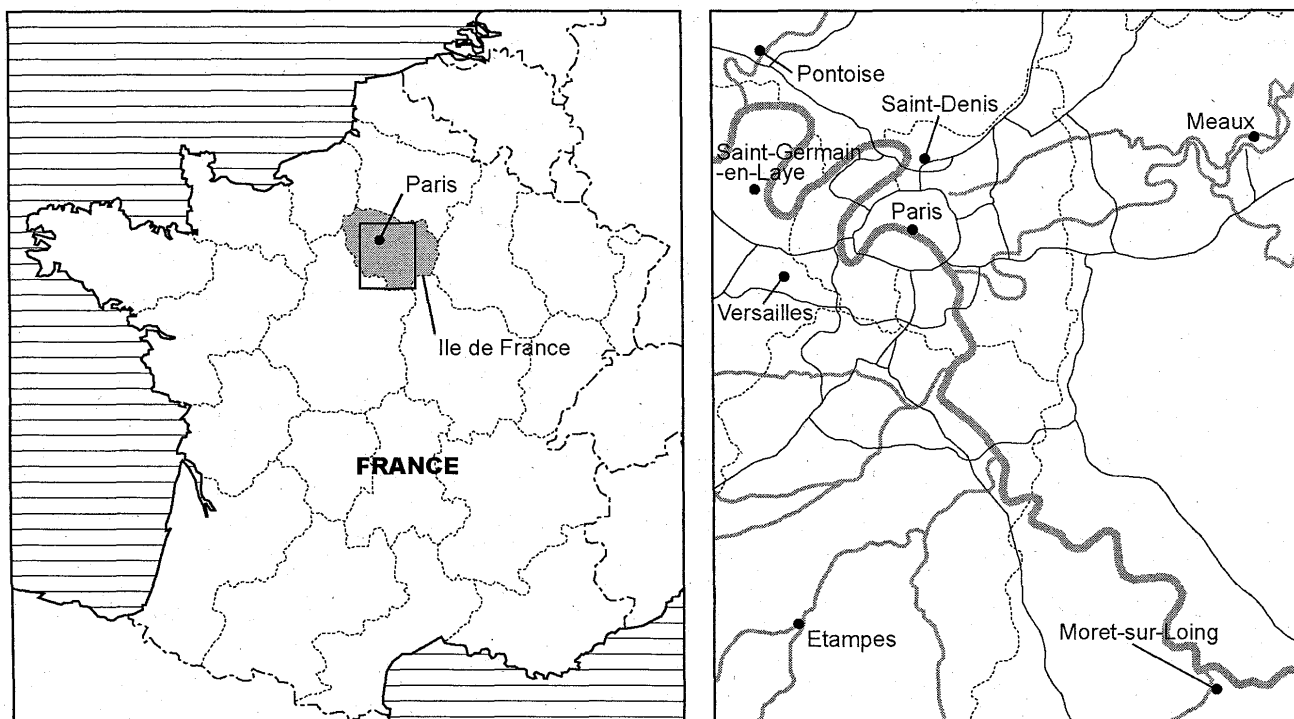


図1. 調査対象都市の位置図

(3) 調査メンバー:

鶴田 佳子 (昭和女子大学現代教養学科講師)

高木 亜紀子 (昭和女子大学生生活環境学科助手)

(4) 調査日程及び調査対象都市の位置図 (図1. 参照)

1. 8月18日 (木) Paris→Pontoise→Saint-Germain-en-Laye
2. 8月19日 (金) Saint-Germain-en-Laye→Versailles→Saint-Germain-en-Laye→Etampes
3. 8月20日 (土) Etampes→Pontoise→Meaux
4. 8月21日 (日) Meaux→Saint-Denis→Paris
5. 8月22日 (月) Paris→Moret-sur-Loing→Paris
6. 8月27日 (土) Paris→Meaux→Paris

(5) 調査内容と方法

事前に文献資料からイール・ド・フランスにおける調査対象候補地を選定した⁶⁾。現地ではマルシェと周辺エリアの平面・断面形態の記録、規模の測定、ファサード及び空間の利用状況の記録、写真撮影、ヒアリング、都市における位置、名称、機能、周辺建築の種別等の確認を行った。事例ごとにマルシェの現状を記録、図面化し、各種資料の情報とあわせデータ化を行う。調査機材はカメラ、距離測定機器、角度測定器、コンベックス、方位計、スケッチブック等を使用した。

3. 調査報告: 事例別データカード (pp. 102~105) 参照

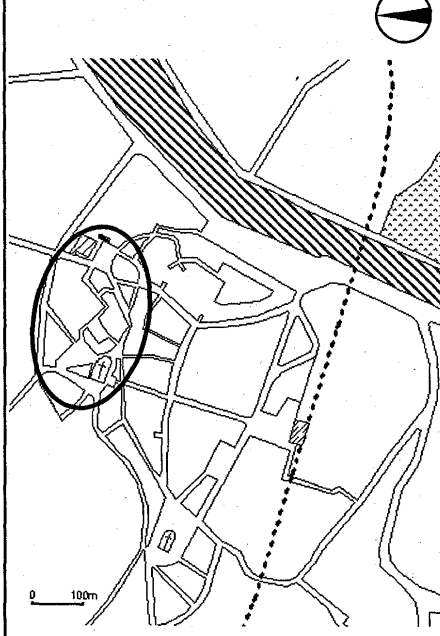
今回調査を実施した7都市について、事例ごとにデータカードを作成した。データカードには都市の名称、開催場所、タイプ、開催日、店舗数、商品、周辺施設、都市図、周辺の施設とのかかわりを示すエリア図、露店の配置と取扱商品の違いを示すゾーニング図、代表写真1点を納めた。

タイプは空間形態を分類した結果から記したものであり (詳細は後述)、開催日はマルシェが開催される曜日を、店舗数は、仮設の露店が並ぶマルシェの場合は露店数を、市場施設の場合は施設内の小売ブースの数をそれぞれ記入した。周辺施設は、マルシェ周辺の教会や学校、駅など主要施設を記述した。その際多くの都市で、1階が店舗、2階以上が集合住宅になっている例がみられたが、その場合は1階の店舗のみを反映させ商業施設と記述した。ゾーニング図では取扱商品を食料品、生活用品、食料品と生活用品の双方が混ざり合っているものの3つに分け作図した。ここでの生活用品とは食料品以外を示し、雑貨、衣類、花、家具などが含まれる。

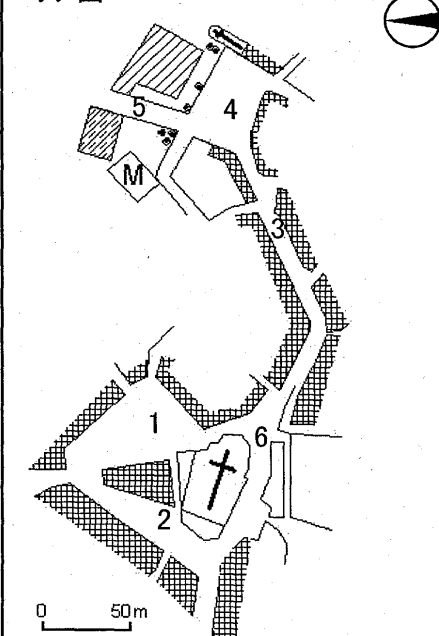
凡例 (図2. 参照) はデータカードの末尾に掲載する。

code	IDF-05-01	都市名	Pontoise	開催日	土
開催場所	1) Place du Grand-Martroy, 2) Place du Petit-Martroy, 3) Rue de l'Hôtel-de-Ville, 4) Place de l'Hôtel-de-Ville, 5) Rue Victor-Hugo, 6) Rue Pierre-aux-Poissons			店舗数	27店舗
タイプ	広場型、街路型	商品			食料品、雑貨、衣類、家具
		周辺施設			商業施設、聖マクルー大聖堂、市庁舎、郵便局、ポントワーズ博物館

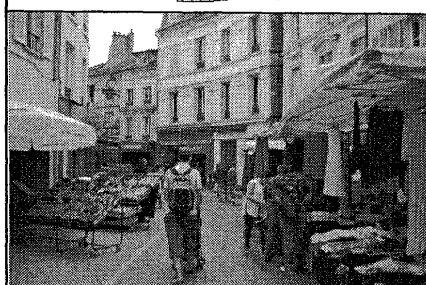
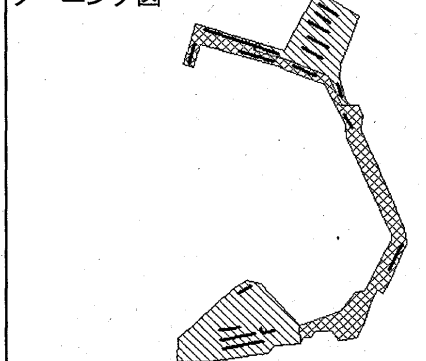
都市図



エリア図

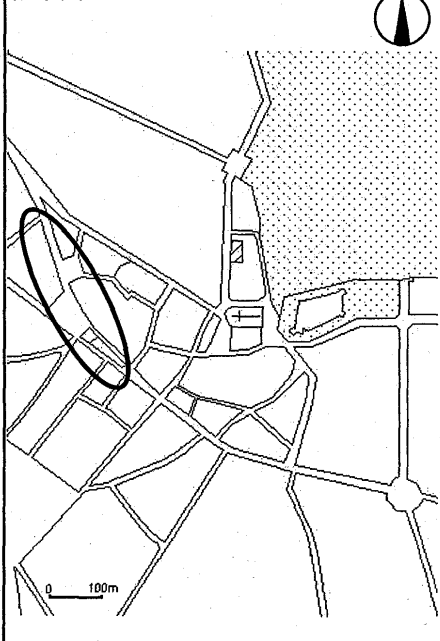


ゾーニング図

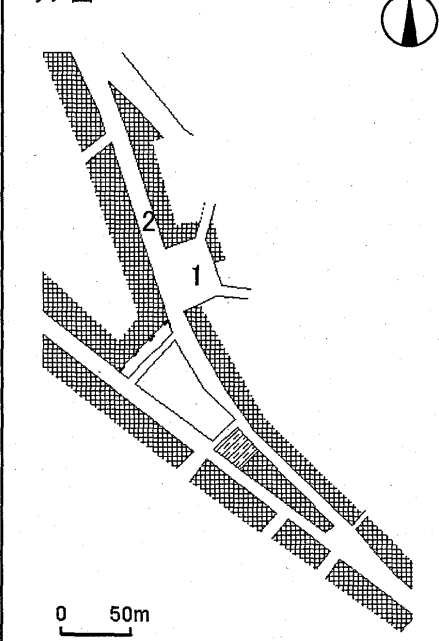


code	IDF-05-02	都市名	Saint-Germain-en-Laye	開催日	火・金・日
開催場所	1) Place de la Victoire, 2) Rue de Poissy			店舗数	40店舗
タイプ	広場型、街路型	商品			食料品、雑貨、衣類、家具
		周辺施設			商業施設、郵便局

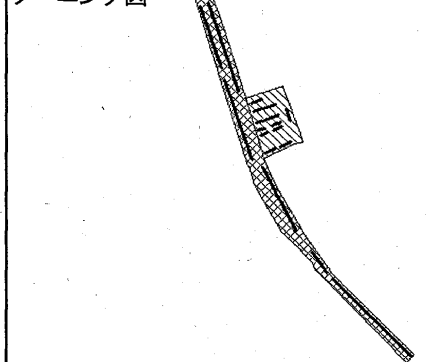
都市図

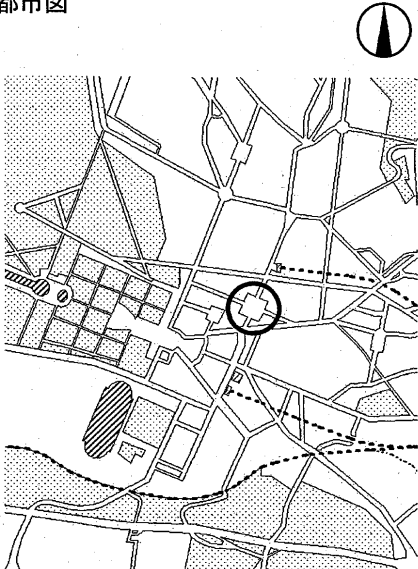
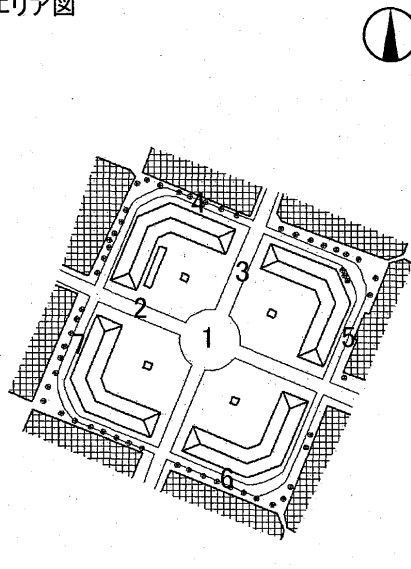
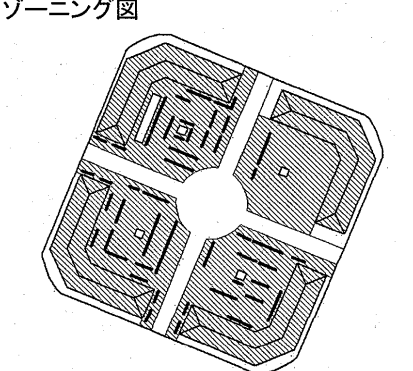
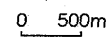




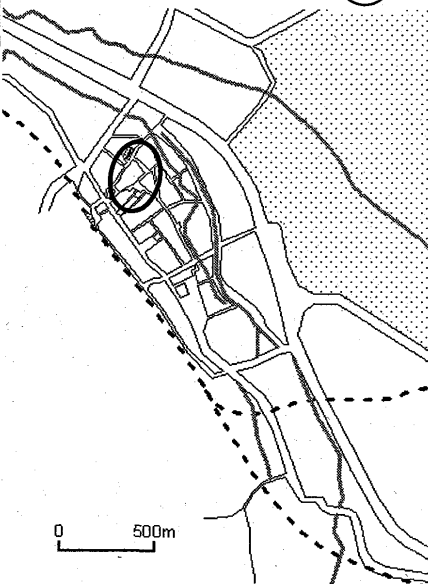
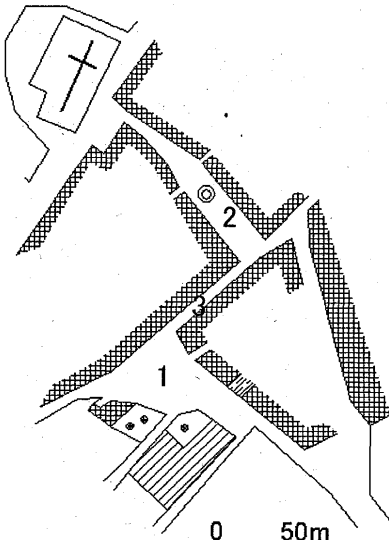
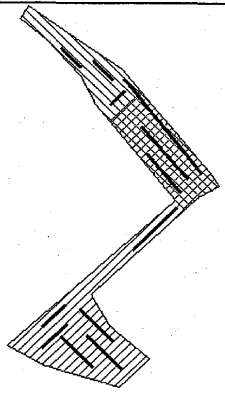
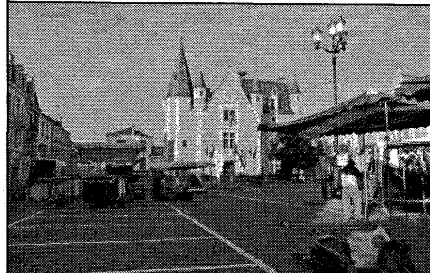
エリア図

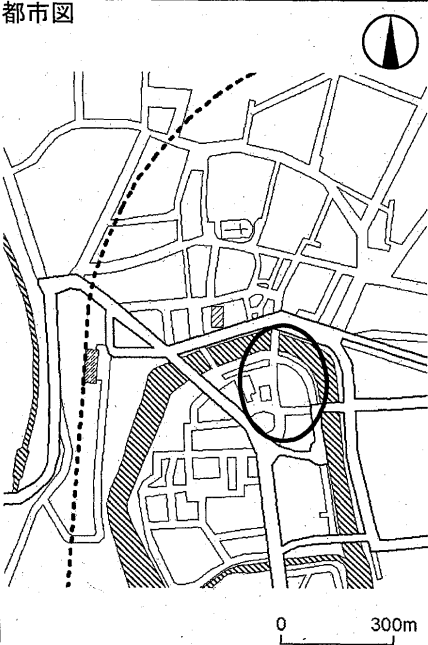
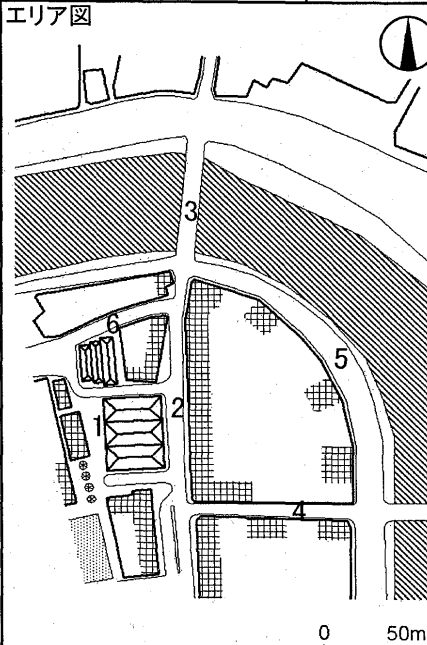
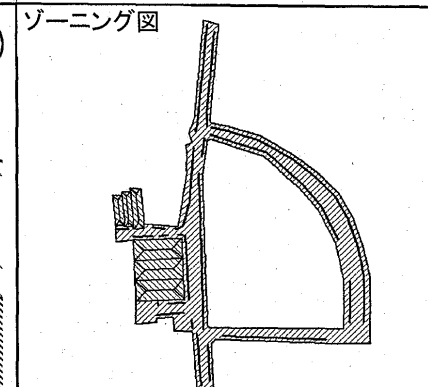




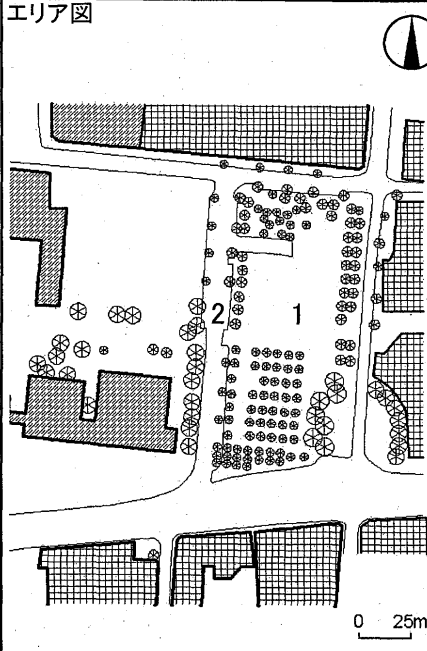
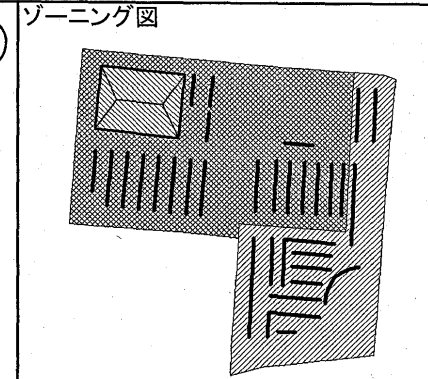

ゾーニング図

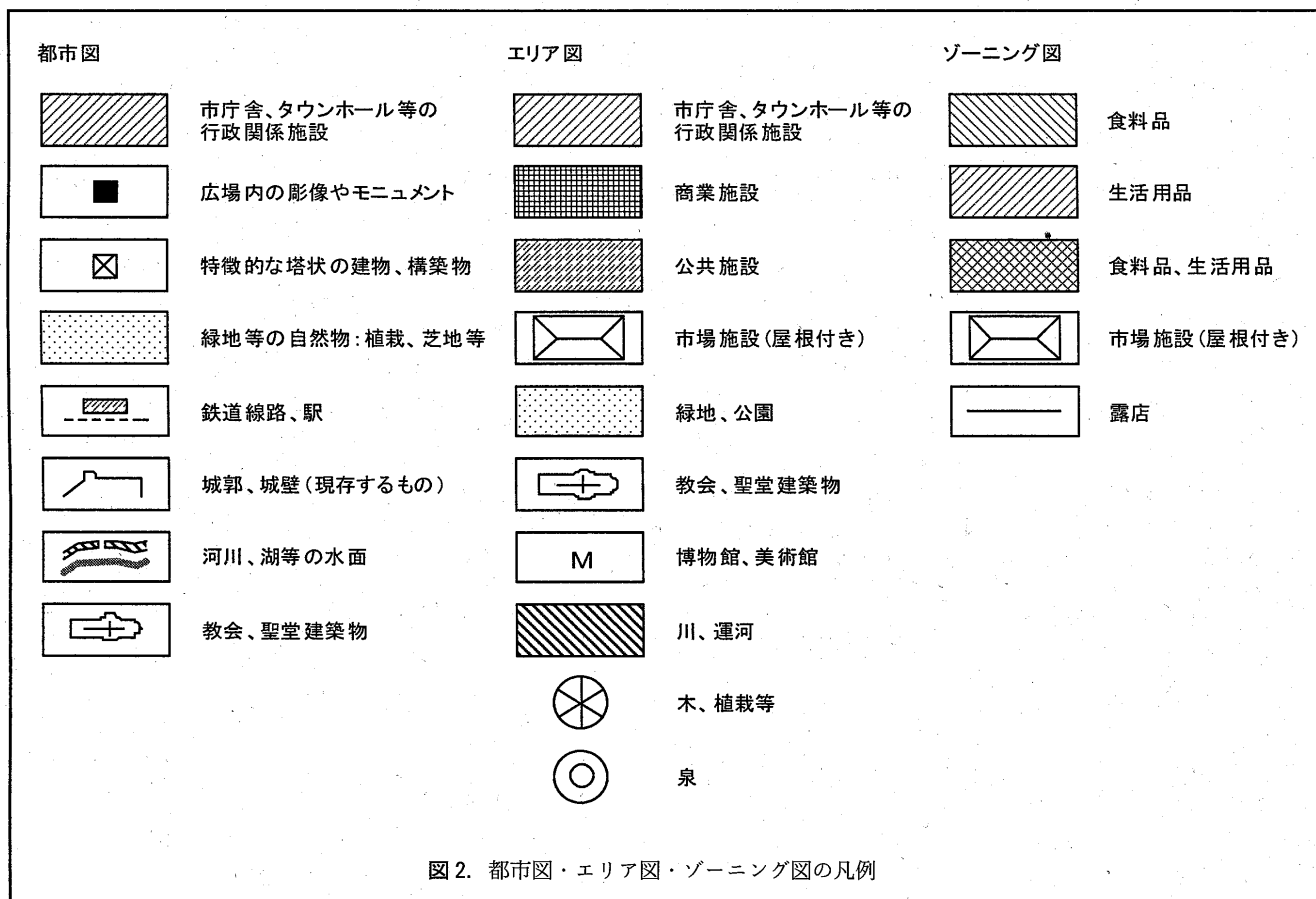
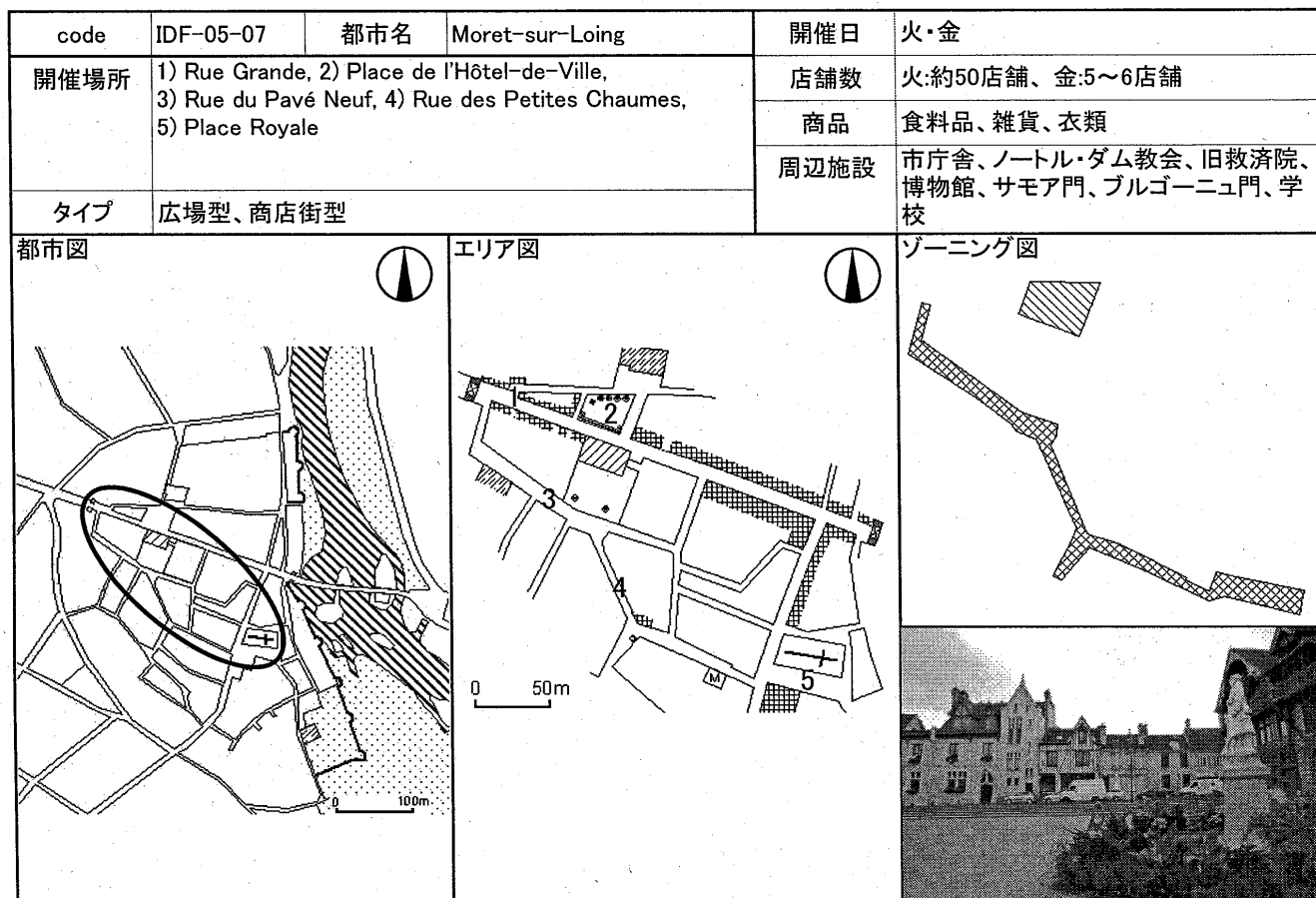


code	IDF-05-03	都市名	Versailles	開催日	施設: 毎日、広場: 月以外
開催場所	1) Place du Marché Notre-Dame, 2) Rue de la Paroisse, 3) Rue du Maréchal Foch, 4) Rue de la Pourvoierie, 5) Rue A. Chénier, 6) Rue au Pain, 7) Rue Ducis			店舗数	施設: 29店舗、広場: 53店舗
				商品	食料品、花
				周辺施設	商業施設、地下駐車場
タイプ	市場施設型、広場型				
都市図		エリア図		ゾーニング図	
					
					

code	IDF-05-04	都市名	Etampes	開催日	土
開催場所	1) Place de l'Hôtel-de-Ville, 2) Place Notre-Dame, 3) Rue Sainte-Croix			店舗数	34店舗
				商品	食料品、雑貨、衣類
				周辺施設	商業施設、市庁舎、郵便局、 ノートル・ダム参事会教会
タイプ	広場型、商店街型				
都市図		エリア図		ゾーニング図	
					
					

code	IDF-05-05	都市名	Meaux	開催日	火、木、土、日
開催場所	1) Place du Marché, 2) Rue du Commandant Berge, 3) Pont du Marché, 4) Rue de Trévise, 5) Quai Sadi Carnot, 6) Rue Boulet Russe			店舗数	95店舗、野菜市場:24店舗、魚市場:12店舗
				商品	食料品、雑貨、衣類、家具、花
				周辺施設	商業施設
タイプ	市場施設型、街路型				
都市図		エリア図		ゾーニング図	
					
					

code	IDF-05-06	都市名	Saint-Denis	開催日	火、水、日
開催場所	1) Place du 8 Mai 1945, 2) Rue Jean Marcenac			店舗数	広場:284店舗、施設:36店舗
				商品	食料品、雑貨、衣類、花
				周辺施設	商業施設、地下駐車場、路面電車停留所 バス停留所、郵便局、工業技術短期大学
タイプ	広場型、市場施設型				
都市図		エリア図		ゾーニング図	
					
					



4. 都市の概要

(1) Pontoise ポントワーズ

ポントワーズは郊外にニュータウンを有する人口27,483人(1999年)の町で、旧市街はオワーズ川を見下ろす高台に位置する。駅は南側の低い位置にあり、駅前から北へまっすぐ延びる通りの奥正面に聖マクルー大聖堂がそびえている。高台に位置する聖マクルー大聖堂の北側に大小2つの広場があり、大聖堂東側に延びる歩行者専有空間の市庁舎通りとその奥の市庁舎前広場が中心部を構成している。これらの広場と広場をつなぐ通りがマルシェの開催場所にもなっている。Grand-Martroy 広場で7店舗、市庁舎通りに1店舗、市庁舎前広場に13店舗、市庁舎の西に位置する郵便局横の通りに6店舗の計27の露店が出ていたが、インフォメーションでの話ではヴァカンスのため、通常よりも露店の数が少ないようである。市庁舎前広場もGrand-Martroy 広場も通常は駐車場として使用されている。商品としては食料品が主であり、通常の野菜や魚の露



写真1. Grand-Martroy 広場に立つ食料品のマルシェ



写真2. 市庁舎(写真中央奥)前広場のマルシェ

店の他に特定の農園の果物やジャムを扱う店もみられた。メインのマルシェは土曜であるが、木曜に旧市街の西端にあるノートル・ダム教会前の広場で食料品の小さなマルシェが立つ。現在の市庁舎は修道院の建物を再利用しているものであり、16世紀の地図によると修道院前の広場(現市庁舎前広場)はワイン市の広場であったようである。

(2) Saint-Germain-en-Laye サン・ジェルマン・アン・レー

12世紀にサン・ジェルマンの丘の地の利を活かした場所に城塞が築かれ、その後、城を中心に庭園や宮殿が増設され、その広大な庭園が町の北東を占めている。庭園の下にパリからの鉄道が走り、地下の駅を出ると周辺に教会、市庁舎、城館と広大な庭園が位置している。人口は41,400人(2004年)。

町の中心は教会前広場から裏手に延びる歩行者専有空間の通りとその先の新市場広場周辺である。新市場広場は2005年の時点では工事のため閉鎖されていた。新市場広場の北東に隣接するPoissy 通りと北側のVictoire 広場がマルシェのエリアである。火曜、金曜、日曜の午前中に開催される。調査は木曜の夕方と金曜の朝に行い、木曜の夕方は露店の枠を組み立て配置し、マルシェの準備をしていた。マルシェは他の町同様にヴァカンスのため露店の数が少なく、途中空いている箇所も多かった。商品としては、Victoire 広場は魚や野菜、チーズといった食料品が並び、通りの方は野菜もあれば、靴やアクセサリー、クッションなど食料品と生活用品が混在している状況であった。

新市場広場の南東面に郵便局、北西面にアーケードの連なるかつての市場施設が対峙して面している。市役所によれば、工事が終了する2006年末には新市場広場の地下に巨大な駐車場ができるため、地上の広場は歩行者専有空間が復活し、マルシェもこの広場を中心に開催されることになるようである。

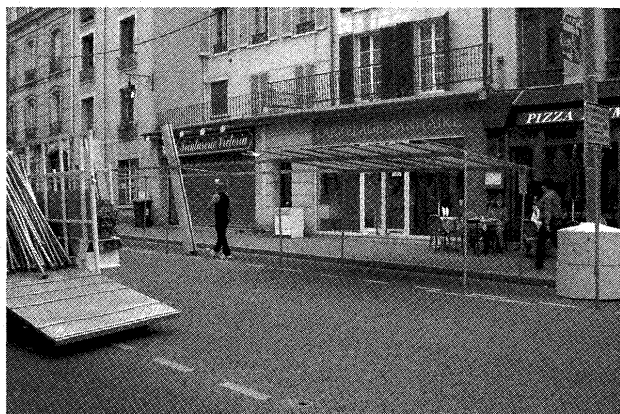


写真3. マルシェ開催日の前日、夕方に露店の枠を準備する



写真4. 工事中の新市場広場（写真左）の横に露店が並ぶ

(3) Versailles ヴェルサイユ

イヴリーヌ県の県都で、パリの約 20 km 南西に位置する、人口 85,900 人（2004 年）の町である。1661 年からルイ 14 世がヴェルサイユ宮殿の建設を開始し、以降 1789 年までパリと並んでフランスの政治と行政の中心地であった。

マルシェの開催場所であるノートル・ダム市場広場は、広場、広場を囲む市場施設、さらに外側の商業施設という三重構造になっている。また、広場の地下は駐車場になっている。中心を十字形に車道が通り、マルシェの開催日も車両通行止めにはならない。車道により広場は 4 つに分断されるが、統一された 4 つの市場施設に囲まれているため、一体感のある空間になっている。ヴェルサイユの町は、センター領域が曖昧であるが、市庁舎の周辺を中心とすると、市場広場は領域内の外縁部に位置する。

市場施設で毎日、広場で火曜、金曜、日曜の午前中に食料品のマルシェ、水曜、木曜、土曜に衣類のマルシェが開かれる。4 つの市場施設は、それぞれ鮮魚、肉、草、小麦粉という名が付いているが、現在は名称とは無関係に食料品中心の店が並ぶ。町の建設当初の 1671 年にこの市場施設も作られたが、現在の建物は 1841 年に再建されたものである。市場施設裏手に並ぶ商業施設の多くはカフェで、外にテーブルと椅子が並んでいる。マルシェの喧騒と切り離された空間でくつろぐ人々の姿がみられた。

ヴェルサイユの町は、宮殿から延びる道を中心にシンメトリーに構成されている。ノートル・ダム市場広場と対称をなす空間として、サン・ルイ広場がある。ここは、1755 年にルイ 15 世が建設させた商業センターで、井戸広場、燕麦広場、泉水広場、大地広場と名付けられた 4 つの小広場のまわりに、商店が軒を連ねていた。かつてはそれぞれの場所でマルシェが開かれていた。街区割りはほぼ同じで、ノートル・ダム市場広場は広場の 4 隅に L 字型に市場施

設が建てられているが、サン・ルイ広場は内側の道路沿いに L 字型に建物が建てられている。そのため、4 つの広場がそれぞれ独立しており、ノートル・ダム市場広場のような一体感は感じられない。現在は公園や駐車場になっており、調査時はあまり人気がなく、閑散としていた。

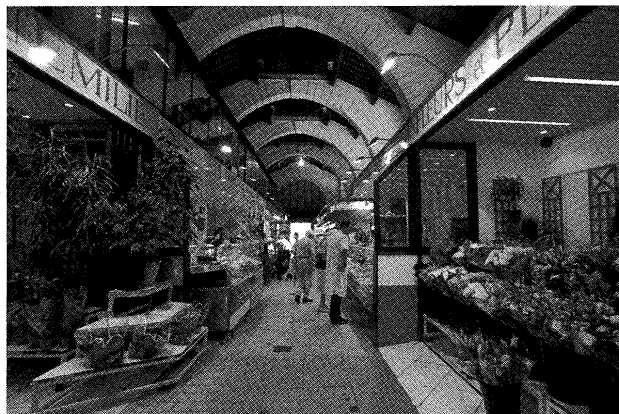


写真5. 市場施設内部



写真6. 市場施設裏手のカフェ

(4) Etampes エタンブ

旧オルレアン街道沿いの人口 21,842 人（1999 年）の町である。町の中央を南北に貫く街道と街道に平行して延びる川に挟まれた市街地に町のセンターと、そこで開催される土曜のマルシェがある。町のセンターは 16 世紀の館の一部を利用している市庁舎と 13 世紀に後陣が要塞化されたノートル・ダム参事会教会周辺である。マルシェは市庁舎前広場と教会前広場、これら 2 つの広場を結ぶ Sainte-Croix 通りで開催される。商品は教会前広場が食料品主体、通りと市庁舎前広場は衣類など生活用品主体で販売されている。教会前広場には広場に面する商店も露店を出し、マルシェの一部を担っていた。市庁舎前広場では市庁舎側を車両通行のエリアとし、広場の北西側に柵をめぐらしてマルシェと車両の仮設の境界を形成していた。



写真7. 広場を結ぶ Sainte-Croix 通り

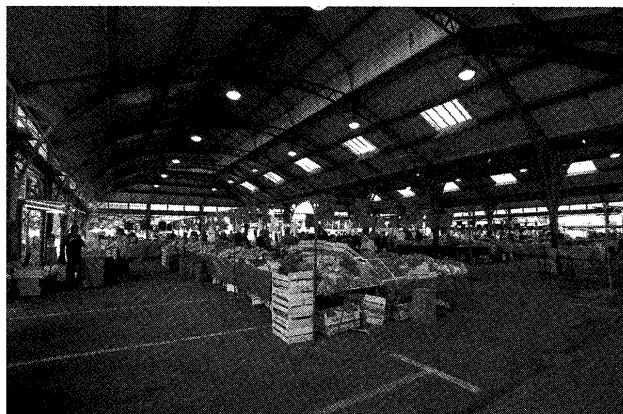


写真9. 半屋外の野菜市場



写真8. 教会前広場に立つ食料品のマルシェ



写真10. 橋の上に並ぶ露店

(5) Meaux モー

パリの北東約 40 km に位置する。人口 49,800 人 (2004 年)、農産物市場として発達した町である。町はマルヌ川が湾曲した部分を中心に南北に広がっている。モーの町のセンターは川の北側の大聖堂周辺である。大聖堂前の通りは歩行者専有空間となっており、商業施設が軒を連ねる。

マルシェの立つ場所は川の南側で、町のセンターとは切り離されている。範囲は、町のほぼ中央に位置する橋 (Pont du Marché) と、そこからまっすぐ延びる通り (Rue du Commandant Berge), 東側の次の橋 (Pont Neuf) までの川沿いの通り (Quai Sadi Carnot), そこから Commandant Berge 通りまでの通り (Rue de Trévisse) 及び常設の魚市場と野菜市場である。開催日は火曜、木曜、土曜、日曜。野菜市場は屋根と柱のみの半屋外空間であり、マルシェが立たない時は駐車場として利用されている。ここでは野菜を中心とし、肉、チーズ、パン等の食料品が、魚市場では魚と肉が、市場施設以外の通りと橋では食料品以外の衣類、家具、雑貨等の生活用品が売られていた。周辺には商業施設が並び、マルシェとともに賑わいをみせていた。

(6) Saint-Denis サン・ドニ

パリ 18 区の北側に位置する、人口 85,994 人 (1999 年) の町である。サン・ドニ大聖堂には 1200 年にわたる歴代フランス王家の墓がある。

町のセンターは市庁舎、大聖堂、それらの面する広場、及びそこから延びる歩行者専有の通りである。通常はセンターに近い市場施設でマルシェが開かれているが、2005 年の時点では市場施設は工事中であったため、さらに北側の 8 Mai 1945 広場及びその西側の公園が利用されていた。マルシェの開催日は火曜、水曜、日曜。西側の公園の半分には仮設の市場施設が建ち、肉や魚などの生鮮食料品が中心に売られていた。その他のスペースには露店が並び、食料品、雑貨、衣類、花などが売られていた。施設に 36 店舗、広場に 284 店舗と、規模は大きい。

周辺には、商業施設、郵便局、短期大学などがあるが、それらとの関連性はなく、マルシェは独立している。広場の地下は駐車場となっており、地上の広場自体は木々に囲まれた緑豊かな空間になっている。



写真 11. 広場に並ぶ露店



写真 12. 西側に建設された仮設の市場施設



写真 13. 2つの城門を結ぶ市庁舎前的大通り



写真 14. 火曜にマルシェが開催される通り

(7) Moret-sur-Loing モレ・シュル・ロワン

城塞都市であった旧市街がロワン川の西岸に位置する。人口4,402人(1999年)の町である。ロワン川にかかる橋から西へまっすぐ延びる通りの両端にブルゴーニュ門とサモア門がある。この2つの城門が旧市街の入り口となっており、ロワン川に面するブルゴーニュ門の並びには城壁が残っている。この2つの城門を結ぶ大通りが町の主軸となっている。大通りは幅約8~10m、長さ約300mで、ほぼ中間の位置に市庁舎と市庁舎前広場が位置する。火曜は大通りから南へ入った街路からノートル・ダム教会横の広場にかけて約50軒の露店が並ぶ。この街路は市庁舎の裏を通り、面するほとんどの建物は住宅である。野菜、果物、魚、肉といった食料品以外に衣類が販売される。金曜は規模が小さく、食料品のみで5,6軒の露店が市庁舎前の広場に並び、マルシェが開催されるとのことである。調査は月曜に実施したため、火曜、金曜ともにマルシェの開催状況は確認できておらず、インフォメーションでのヒアリング情報のみである。

5. イール・ド・フランスにおけるマルシェの形態

イール・ド・フランスは森と川に囲まれた自然豊かな地であり、面積はフランス全土の2.2%にすぎない。しかし近年、パリ市内からの人口流入等により、フランス全人口の18%強を占める、急速に都市化が進んだエリアである。ニュータウンもあれば、パリと同様に長い歴史を有する古都もあり、その多くはセーヌ川、オワーズ川、マルヌ川、ロワン川、エソンヌ川といった蛇行する川の流域に立地している。今回、調査を実施した7都市もヴェルサイユ以外の6都市は川沿いに立地、発展してきた都市である。大都市パリと比べて都市の規模が小さいため、マルシェはほぼ1箇所に集中して開催され、その空間形態としては広場や街路を複数利用した複合形態をとっている。7都市の特徴を空間形態と都市センターとの関係から整理する。

(1) 空間形態

パリのマルシェの空間形態の場合、店舗形態から仮設と常設に二分し、次に空間全体の構成を施設の配置からアイランド型、商店街型、広場型、市場施設型、歩道型に分け、

さらに広場内に市場施設を内包する事例を広場+市場施設型として、6タイプに整理した。今回のイール・ド・フランスの7事例について検討すると、店舗の形態は仮設と常設が混在してマルシェを形成しており、平面形態の視点から街路型と広場型に二分できる点でパリの事例と異なる。

街路型は、パリ事例のアイランド型、商店街型、歩道型に該当する。アイランド型では車道の中央に緩衝帯を含む大通りが、商店街型では商業施設の連なる通りが、歩道型は中央に車道を挟みながら両サイドの歩道に露店の並ぶ通りが対象である。今回対象とする7事例では、都市の規模が小さい、あるいは旧市街内でマルシェが開催されるため、歩道と車道が明確に分離されている街路でもマルシェ開催時は車両が締め出され、一帯が車道も含め歩行者専有空間へと変化する。通りの周辺には商業施設が面し、マルシェ開催時には露店とともに常設店舗も賑わい、街路空間と一体化している。

一方広場型では、ヴェルサイユとサン・ドニの場合は地下に駐車場を設け車との共存が図られ、ポントワーズ、サン・ジェルマン・アン・レー、エタンプ、モーの場合は、マルシェ開催日はほぼ車両進入禁止となっている。モレ・シュル・ロワンの場合は、7事例の中では最も規模の小さな町であるためか、旧市街内でほとんど走っている車をみかけなかった。いずれの事例も広場と街路の複数の空間が

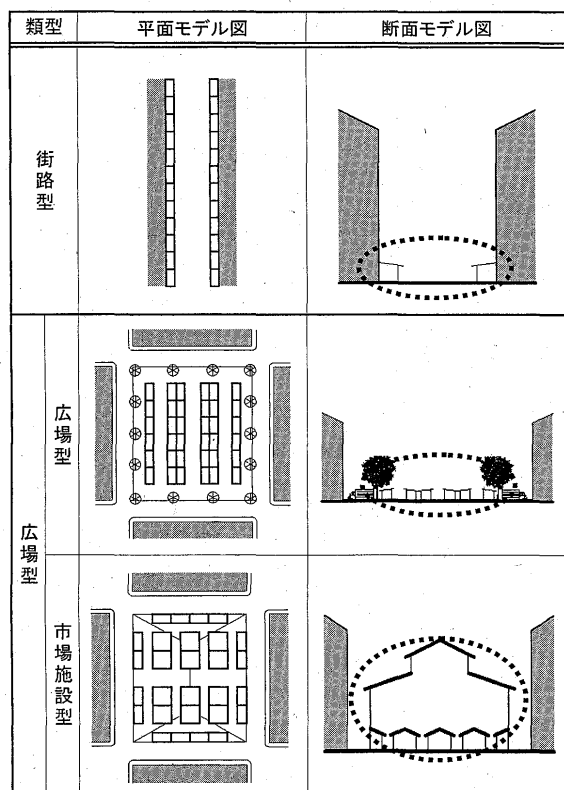


図3. イール・ド・フランスにおけるマルシェの空間形態モデル図

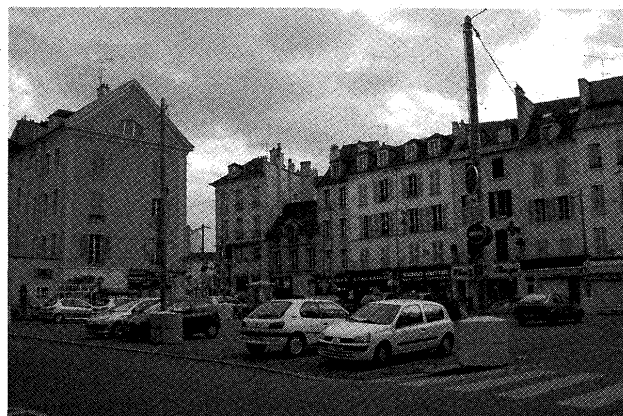


写真15. マルシェ開催日以外の広場は駐車場となっている
(サン・ジェルマン・アン・レー)

複合する形で構成されている。

(2) 都市のセンター機能との関係

モーとサン・ドニ以外は都市のセンターとマルシェの開催場所はほぼ同一のエリアとなっている。ポントワーズとエタンプの場合は市庁舎と教会がそれぞれ面する広場と、それらを結ぶ街路の3つの空間からセンターが構成され、同時にマルシェの開催場所となっている。ヴェルサイユとサン・ジェルマン・アン・レーは都市のセンター領域が広く、その一部でマルシェが開催されている。モレ・シュル・ロワンは、センターとなる大通り自体ではマルシェは開催されないが、通りに隣接する市庁舎前広場と大通りの南側に延びる裏の通りで開催される。センターに隣接する形である。モーは川を挟んでセンターと対峙する形でマルシェは開催されており、センター領域には大聖堂前の広場に隣接する歩行者専有の通りが整備されている。サン・ドニは大聖堂と市庁舎、それらの面する広場があり、そこから西側に延びる歩行者専有の通りとあわせてセンター領域を形成している。マルシェは歩行者専有の通りが大通りによって途切れた先の広場に位置する。工事中の市場施設は歩行者専有の通りに面する形でセンターの一部を担っている立地である。

都市のセンター機能と歩行者空間とマルシェを、すべての事例が同一のエリアを示しているわけではないが、共有もしくは隣接しながら関連性をもっている。

6. まとめ

大都市パリと比較するために郊外の7事例を追ってきた。パリの場合、緩衝帯を含む大通りや鉄道の高架下といった都市の隙間でマルシェが開催され、車との共存がなされている。それに対し7事例の場合、メインの広場や街路を、

曜日や時間を限ってマルシェ専有の空間として活用している。マルシェ空間を確保することにより、都市の歩行者空間を一時的かつ定期的に形成し、都市のセンター機能の一端を担っている。空間形態としては、広場と街路の複合型となっていることが共通の特徴である。

今回の調査は、ヴァカンスの時期であったため、いずれの都市でも露店数が通常より少なかった。次回はヴァカンスの時期を外して調査する必要がある。

今後さらにパリとイール・ド・フランスの調査事例を増やし、マルシェ及び都市空間の特徴について検証を進めていきたい。

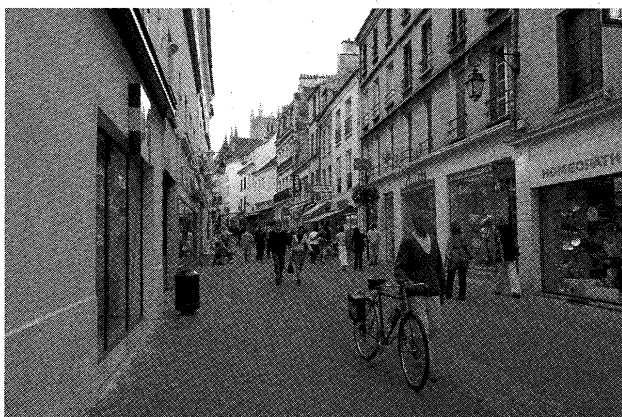


写真 16. 都市センターの歩行者専有空間（モー）

註

- 1) フランス語 Marché。市場は、常設の市場施設から仮設の露店群まで市場ごとに建築や営業の形態は様々であるが、本論文ではこれらの市場を総称してマルシェと呼ぶこととする。
- 2) 第1回市場空間調査は、鶴田他「パリにおける市場の空間形態に関する調査報告」学苑・環境文化紀要 No. 777, pp. 45-57 に報告し、第2回調査は、鶴田他「パリにおけるマルシェの空間形態に関する考察」学苑・生活環境学科紀要 No. 789, pp. 96-117 にて報告している。
- 3) イール・ド・フランス地方。本論では地方をとり、表記する。パリ及びパリ郊外の7つの県、セーヌ・サン・ドニ県、オー・ド・セーヌ県、ヴァル・ドワーズ県、イヴリーヌ県、エソンヌ県、ヴァル・ド・マルヌ県、セーヌ・エ・マルヌ県からなる地方である。本論ではパリ郊外の7つの県を対象とする。
- 4) 参考文献 003 による。県別、曜日別に都市名が羅列されており、これらを全て数え上げた合計である。毎日開催と書かれているものは7倍して加えている。整理したものが表1である。
- 5) パリ商工会議所 CCIP (Chambre de Commerce et d'Industrie de Paris) パリ代表部作成のマルシェに関する

報告書《Au cœur des quartiers, au rythme des saisons, les marchés de Paris》『パリのマルシェ、街中の風物詩』(2001年10月)による。フランス語からの日本語訳は平岡忠氏によるものである。平岡忠氏にはここで深く謝意を表する。

- 6) 参考文献 003 を主に情報源とした。情報データが20年前という古いものであり、それが継続しているものか不明であるため、インターネットやガイドブック等の最新情報を入手しながら、都市図の情報と合わせて調査地を選定した。

参考文献

001. 25 Halles de Marché, Carol Maillard, Moniteur, 2004
002. La France des halles & marchés, Gilles-Henry Bailly 他 Privat, 1998
003. Guide des Foires Fêtes Marchés de France, Mandel, 1985
004. An Hour from Paris, Annabel Simms, Pallas Athene, 2002
005. Etampes, en lieux et Places, Frédéric Gatineau, Association 《A Travers Champs》, 2003
006. ミシュラン・グリーンガイド パリ周辺・イール・ド・フランス, フランス ミシュランタイヤ社, 実業之日本社, 1995
007. 世界大百科事典, 日立デジタル平凡社, 1998
008. 旅名人ブックス 8 イール・ド・フランス, 吉村葉子・宇田川悟, 日経 BP 社, 2002
009. 地球の歩き方 A 07 パリ & 近郊の町, 地球の歩き方編集室, ダイアモンド・ビッグ社, 2003
010. ロンリープラネットの自由旅行シティガイド パリ, スティーブ・ファロン, 2003
010. <http://www.ccip.fr/>, パリ商工会議所, 2005/02/02
011. <http://www.tourisme.fr/office-de-tourisme/meaux.htm>, Meaux office de tourisme, 2006/08/12
012. <http://www.versailles-tourisme.com/index.html>, Office de Tourisme de Versailles, 2006/08/13
013. <http://www.saint-germain-en-laye.fr/en/index.html>, Office de Tourisme de Saint-Germain-en-Laye, 2006/08/15

(つるた よしこ 現代教養学科)
(たかぎ あきこ 生活環境学科)